

昭和37年9月20日生
平成23年4月福岡県議会議員初当選
平成27年4月二期目
平成31年4月三期目
令和5年4月四期目
添田町立添田小学校・添田中学校卒
福岡県立田川高等学校卒
日本大学商学部会計学科卒
麻生セメント株式会社入社・株式会社
株式会社麻生情報システム代表取締役
社長
福岡県農林水産副委員長、福岡県総務
企画地域振興委員長



こうざき 聡 夢からはじまる

http://www.kouzakisatoshi.com

県政報告 自由民主党福岡県議団

令和5年11月号

自由民主党福岡県議団
県民生活高工学任委員会委員
子育て支援・人材育成調査特別委員会副委員長
福岡県議会議員 **神崎 聡**

令和5年梅雨前線豪雨により、本県
においても、5名の尊い命が失われると
もに、家屋や事業所、道路、河川、農
地、林地、農業用施設、農作物などに
甚大な被害が発生しました。

9月定例会では、今後、被災された皆
様が一日も早く、元の生活に戻るよ
う、また、農林漁業者、商工業者の皆
様が事業継続の意欲を失うことなく、
事業を再開・継続できるよう、国や市
町村、関係機関と連携し、被災地の復
旧・復興、県土強靱化に全力で取り組
むために、被害の復旧・復興費用を盛り
込んだ総額515億9千7百万円余の
補正予算を可決・成立しました。

被災した道路や河川などの早期の復
旧費用として240億2912万円、被
害を受けた農業用ハウスや機械の修繕費
用などを支援する事業に10億934
5万円を盛り込んでいます。新規の事業
として県独自の補助金を創設し、被災
した中小企業や小規模事業者に対し
て、事業の再建に必要な施設や設備の復
旧費用として最大で1億円を補助する
事業に5億6930万円を計上してい
ます。

設置された令和5年決算特別委員会
は、自民党県議団の理事を仰せつかりま
した。各交渉会派との調整や県執行部・
議会事務局との打ち合
わせなど、良い経験を
実践させてもらって
います。

スマートフォンでも県議会観覧中継
ブログ報告

動画報告

フェイスブック

フェイスブックページ

フェイスブックページ

ツイッター

令和5年度9月補正予算のポイント

予算編成の考え方
「令和5年梅雨前線豪雨災害の復旧・復興対策」に取り組むとともに、「安全・安心の確保」、「燃料費上昇分等への支援」、「地域活性化」に必要な経費を計上

補正予算の規模 (単位: 百万円)

区分	当初予算	現計予算	9月補正予算	9月補正後予算
	A	B	C	D=B+C
一般会計	2,197,509	2,214,379	51,597	2,265,976
特別会計	982,964	982,964	0	982,964
計	3,180,473	3,197,343	51,597	3,248,940

主な内容 (単位: 百万円)

項目	予算額	財源内訳			
		国庫	県庫	一般財源	
○ 令和5年梅雨前線豪雨災害の復旧・復興対策	41,473	11,307	27,691	65	2,410
○ 安全・安心の確保	8,798	4,757	3,096	440	505
○ 燃料費上昇分等への支援	924				924
○ 地域活性化	402		199	181	22
合計	51,597	16,064	30,986	686	3,861

※新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 20億円
・補助金 19億円

令和5年梅雨前線豪雨災害の復旧・復興対策

- 被災農林漁業者への緊急支援
 - 次期作に向けた種苗や資材の購入等を支援 5億1,586万7千円
【補助対象】 ①野菜、花き、大豆の種苗、苗木
②野菜、花き、果樹、大豆、水稲、苗木の肥料、農薬等
③果樹、茶、苗木の農地の土砂撤去
④果樹、茶、苗木の改植
【補助率】 ①～③: 1/2 ④: 定額 (標準的な金額を設定し、その1/2を補助)
 - ハウス等の施設、農業用機械の再取得・修繕等を支援 10億9,345万9千円
【補助対象】 ①ハウス、果樹棚、加温機等
②トラクタ、田植機、農業散布機等
③ハウスの浸水防止壁、排水ポンプの設置
【補助率】 ①: 8/10 ②③: 1/2
 - 浸水した牧草・ワラに代わる飼料、肉用鶏のヒナの購入を支援 698万6千円
【補助対象】 牧草・ワラ、「はかた地どり」「はかた一番どり」のヒナ
【補助率】 1/2
- 公共土木施設の復旧等
 - 被災した道路や河川などの早期復旧 240億2,972万2千円 [当初予算活用 55億1,568万1千円]
 - ・道路(243か所)、河川(1,121か所)、砂防施設(66か所)
 - ・農地(1,010か所)、農業用施設(434か所)、林道(144か所)、治山施設(2か所)
 - ・県有施設等(浮羽工業高等学校ほか9か所)
 - ・平成筑豊鉄道の線路敷等の復旧を支援
 - ・国指定文化財(大宰府跡、杷木神龍石)の復旧を支援
 - 被災した道路や河川などの早期復旧 240億2,972万2千円 [当初予算活用 55億1,568万1千円]
 - ・道路(243か所)、河川(1,121か所)、砂防施設(66か所)
 - ・農地(1,010か所)、農業用施設(434か所)、林道(144か所)、治山施設(2か所)
 - ・県有施設等(浮羽工業高等学校ほか9か所)
 - ・平成筑豊鉄道の線路敷等の復旧を支援
 - ・国指定文化財(大宰府跡、杷木神龍石)の復旧を支援
 - 災害復旧の効果を高め、災害の再発を防止 109億3,214万8千円 [当初予算活用 9億2,654万3千円]
 - ・土砂災害が発生した箇所に砂防施設を設置(8か所)
 - ・崩壊した林地に治山施設を設置(37か所)
 - ・河川の浸没(27か所)、堤防高上工事(6か所)等を実施
 - 道路に堆積した土砂や海岸に漂着した流木の撤去等を実施 39億1,855万1千円 [当初予算活用 2,800万円]
 - ・土砂堆積の様子
 - ・砂防施設
 - ・流木の様子



《日田彦山線BRT沿線地域の振興》

決算特別委員会では日田彦山線BRT沿線地域の振興について質され、執行部からは、福岡県日田彦山線沿線地域振興計画に掲げた3つの柱を基本戦略とし、東峰村、添田町とより一層連携を深め、BRTを活かした地域振興に取り組みでまいりたいとの答弁がありました。

（問）県としては、BRT単独だけではなく、2次交通など、他の公共交通との連動が重要であるとの認識だと思いが、それを実現するためのシステムの肝と言えるMaasについて問う。県が今年度から実証実験を始めたMaas（Mobility as a Service）について、日田彦山線BRT沿線の地域が第一弾と聞く。この地域を最初に選んだ理由を問う。

（交通政策課長答弁）まず一つ目として、Maasを活用し、BRTとそれにつながる交通をスムーズにつなげ、移動しやすい仕組みづくりをするため。二つ目は、地域内外から人呼び込み、沿線地域の活性化につなげるため。三つ目、今年夏が開業予定とされていた日田彦山線BRTひこぼしライン開業にあわせるため、こういった以上の理由から、県のMaas実証実験の第一弾の地域といたしたところ。

（問）日田彦山線BRT沿線地域でMaas実証実験をはじめるとは、今回、スマートフォン一つで沿線地域を周遊できる1日乗り放題のデジタル乗車券を販売された。このデジタル乗車券の取組には、沿線自治体をはじめ、飲食店や観光施設、JR九州とともに県もスクラムを組んで実現したとのことだが、デジタル乗車券の販売の狙いや、地域への効果について問う。

（交通政策課長答弁）今回、日田彦山線BRT全線が1日乗り放題となる乗車券と、東峰村・添田町の飲食店や観光施設の割引等様々な特典を組み合わせた、便利でお得な「デジタル乗車券」を販売した。BRTひこぼしラインを多くの方に持続的に利用していただくためには、一過性のブームでなく、何度も沿線地域に来ていただけるような工夫が必要。

地域の魅力ある店舗や観光施設とそのお得な乗車券を組み合わせた、この「デジタル乗車券」により、地域内外の移動需要を喚起し、沿線地域の振興にも繋げることができると考えている。また、この「デジタル乗車券」の取組に地域の店舗の方々にも協力の際、「自分たちもBRTのこの開通のこの時期だからこそ協力したい」とか、あと「この機会にもっと地元を盛り上げていきたい」というような前向きな言葉を多くいただいた。今回のこのデジタル乗車券の取組をきっかけに、行政と交通事業者だけでなく、地域の皆様と一緒にこのMaasを活用しましたBRTの利用促進、それと地域振興に取り組むことができたのは一つの大きな効果だと考えている。

（問）Maasの取組では、スマートフォンアプリを活用して、沿線地域の魅力発信を県としてどのように情報発信していくのか問う。

（交通政策課長答弁）デジタル乗車券で活用できる特典を提供していただいた協力店舗、そして施設の情報に加え、東峰村や添田町の地域資源、イベント、観光情報をMaasアプリと本県のMaas専用ホームページにおいて、紹介をしている。

また、本県のこのMaasの取組をはじめとする取組、それから沿線地域の魅力を紹介するCM動画を作成し、ユーチューブで発信している。これらの取組によりまして、イベントや観光情報をはじめとする地域の魅力を発信してまいる。

（問）特にSNSを活用する若い世代では、レコメンド広告やプッシュ通知など、プッシュ型の情報発信が主流となっている。アプリ上でそのような発信をすることで、イベント情報をタイムリーに伝え、集客に結びつけることが可能になると考えますが、そうした機能を搭載することは可能か問う。

今後とも、「福岡県日田彦山線沿線地域振興計画」に掲げました3つの柱、一つ目は、「福岡県・日田彦山線・地域の魅力を活かした地域振興そして観光振興」、二つ目は、「地域資源を活かした産業振興」、三つ目は、「住みたい地域の魅力づくり」、これを基本戦略として、東峰村、添田町とより一層連携を深めるとともに、「九州の自立を考える会」、県議会の皆様のご意見を伺いながら、BRTを活かした地域振興に取組む。

（交通政策課長答弁）現在、このBRT沿線エリアで活用しているMaasアプリの利用者に対し、イベント、観光、デジタル乗車券に関する情報、先生のおっしゃるプッシュ通知をすることは可能。このプッシュ通知については、追加費用が必要となるので、東峰村、添田町等で構成するMaasの検討会議において、その有用性や効果の協議、検討を図ってまいる。

（問）県が推進するAIオンデマンド交通導入やMaasなど、先進的な取組には大いに期待している。この日田彦山線BRTひこぼしラインを多くの方にご利用いただき、立って続けに甚大な被害を受けた地域の、復興の象徴になるような公共交通を創り上げていただきたい。そして、その持続可能な運行のために、これまで同様、県として引き続きしっかりと支援をしていただきたい。

最後に日田彦山線BRTの成功、ひいては沿線地域の振興について、部長の決意を問う。

（企画・地域振興部長答弁）平成29年の7月です。私は当時、観光局観光政策課長として任務にあたっていた。日田彦山線宝珠山の筑前岩屋駅周辺のレールが大きく曲がり、通れなくなると、大変衝撃を受けた。あれから6年経つ。今年の梅雨前線豪雨の被害もあった。しかし、東峰村と添田町にとって、また、県にとっても日田彦山線BRTの開業を、無事迎えることができた。

この地域の本格的な復興は、これからが本番であり、県としても息の長い支援を続けていかなければならない。

先ほど、交通政策課長が申し上げたような様々な取組による日田彦山線BRTの利用促進と、沿線地域の振興策によって、持続可能な運行の確保につながるように頑張っていくと考える。

今後とも、「福岡県日田彦山線沿線地域振興計画」に掲げました3つの柱、一つ目は、「福岡県・日田彦山線・地域の魅力を活かした地域振興そして観光振興」、二つ目は、「地域資源を活かした産業振興」、三つ目は、「住みたい地域の魅力づくり」、これを基本戦略として、東峰村、添田町とより一層連携を深めるとともに、「九州の自立を考える会」、県議会の皆様のご意見を伺いながら、BRTを活かした地域振興に取組む。

9月定例会中に決算特別委員会が設置され、「令和4年度福岡県一般会計決算」ほか19件が審査されました。

議会の監視機能を発揮し、審査結果を令和6年度予算に反映させるため、これらの議案について慎重に審査を行いました。

一般会計については、歳入歳出予算現額、2兆5千8百48億円余に対し、歳入決算額は、2兆4千4百95億円余、また、歳出決算額は、2兆3千7百55億円余で、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は、3百1億円余となっておりますが、令和5年度中に返納する新型コロナウイルス感染症対策関連の国庫支出金及び今後積算される普通交付税、2百9億円余を除いた実質収支額は、92億円余となっております。

特別委員会は、非常に広範囲かつ複雑なので、議案等を能率よく専門的に審査するために設置されています。

子育て支援・人財育成調査特別委員会 子育て支援並びに子どもの権利の保護及び健全育成その他少子化・人口減少社会に関する諸施策の推進を図るため

- 1 子育て支援並びに子どもの権利の保護及び健全育成に関する諸調査
- 2 働き方改革及びジェンダー平等の推進に関する諸調査
- 3 人材（人財）育成及び教育施策の充実に関する諸調査
- 4 その他少子化・人口減少社会に関する諸調査

初めての子育て支援・人財育成調査特別委員会

改選後、本特別委員会の副委員長に任命されています。最初の特別委員会では、以下の議題で審議しました。委員会前には、正副委員長勉強会を行なっています。

①第2期「ふくおか子ども・子育て応援総合プラン」令和4年度実施状況について
少子化の流れが加速する中、本県では352の施策を関係法に基づく計画に沿って実施し、その実施状況の説明がありました。これをやれば少子化が食い止められるという特効薬はありませんが、一つひとつ掲げた目標を県全域で実践していくしかないんだと思います。地域ごとに課題が違いますが、必ず減少から反転させる結果を残さなければならぬと思います。

②第2期「ふくおか子ども・子育て応援総合プラン」（福岡県子ども・子育て支援事業支援計画）の中間見直し（案）について
保育所等の新設や増員は、県内各市町村が保育に必要な量の見込みを立てていますが、これまでの実績から、県内47市町村で見直しが行われています。ここでも地域間での取組み状況が違い、地域課題に沿った対策が必要だという認識です。委員からは、兄弟で別の園に通っている園児がいて、こういった子育て世帯の方は待機児童には、カウントされていないと指摘がありました。送迎や園の行事など、子育て世代に多大な負担となっている現状が報告され、都市部ならではの課題が浮き彫りになりました。なかなか地方ではわからない課題があるんだと感じます。

③児童相談所における第三者評価について
2022年4月に施行した「福岡県子どもへの虐待を防止し権利を擁護する条例」に基づき、児童相談所に第三者評価を導入し、昨年度受審した結果報告がありました。



子育て支援・人財育成調査特別委員会

		横尾 政則 (自民)	後藤 香織 (民主)
		花田 高彦 (自民)	松下 正治 (公明)
		吉田健一朗 (自民)	大塚 勝利 (公明)
		大田 満 (自民)	薮林 大我 (新政)
		吉田 浩一 (自民)	新聞 高将 (維新)
		松本 國寛 (自民)	福地 幸子 (桜和)
		田中 雅臣 (民主)	

初めての子育て支援・人財育成調査特別委員会管外視察（石川県・富山県）

令和5年10月25日～27日の日程で、副委員長を務める子育て支援・人財育成調査特別委員会の管外視察が行われました。

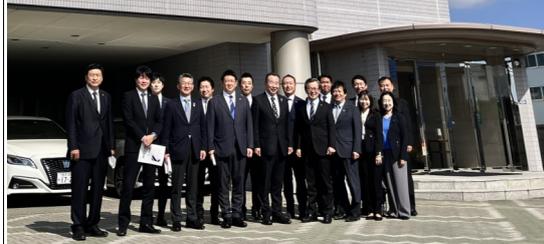
① 株式会社コマツ製作所・こまつの社
ダイバーシティ&インクルージョン (D&I) の位置づけとこれまでの取り組みについて説明を受けました。コマツにおけつジェンダー・ダイバーシティの推進を図るための様々な施策を推進し、多様な人材がお互いに個性や能力を認め合い、活かし合うことのできる環境を実現している。心理的安全性の高い職場風土を醸成し、イノベーションの創出による会社全体の成長に繋がっています。基本的な考え方として、これまでは、働き続けられる環境を整える、女性のハンディキャップを肯定する「いかに仕事を続けてもらうか」、すなわち育児・介護・短時間・在宅勤務施策を実施してきましたが、これからは、活躍し続けるための環境を整える、女性のハンディキャップを補う「いかに仕事をしてもらうか」、すなわちキャリア形成・育成施策への転換を図ることを施策の方向性としていました。両立支援策の質の転換というか、育児支援から仕事支援への転換ということ。これを基本として理系女性の積極的採用やCDP (Career Development Program)、女性キャリアプラン研修などの意識向上と育成、そして仕事と育児両立支援として、休業・休暇制度の充実や経済的支援が行われています。



② いしかわ子ども交流センター(公益法人いしかわ結婚・子育て支援財団)
財団がセンターを拠点に様々な結婚・子育てを社会全体で支えるしくみづくりについて説明を受けました。未婚化・晩婚化の流れを変えるための取り組みの推進やきめ細かな子育て支援の取り組みの推進、子どもの健全な成長に資する環境づくりの推進など、積極的な子育て家庭への支援事業等を行ない、例えば、育児用品リサイクルショップ開催、男性の子育て促進企画、プレミアムバスポート、「あいきゅん」による結婚支援など、複合的な支援が行われていました。特に興味関心が湧いたのは、いしかわの縁結びで「きゅん」とする出会い、みつよう！と、個人のスタイルにあったお相手を探せる専用サイト「あいきゅん」。イベントで良い出会いを見つけた方には、「いしかわ縁結びイベント」、自分に合うお相手を紹介して欲しい方には「縁結びistj」によるお見合い、自分でお相手探しをしたい方には「いしかわ縁結びまっちゃんぐ」。特に「縁結びistj」は、独身男女の結婚相手やお見合いのお世話（仲人役）をボランティアでサポートするよき理解者であり、心強い相談役となっています。「縁結びistj」制度を含む県の結婚支援事業による成婚数は、平成17年度からの累計で1,172組（令和4年3月末現在）と着実に成果をあげていたのには驚きました。この昔ながらのアナログの支援の必要性を強く感じたところです。



③ 丸文通商株式会社
石川県経営者協会主催の働きやすい職場づくりを進める企業を表彰する、2020年「第1回かがやきカンパニー大賞」受賞されている。その他、2023年健康優良法人の認定獲得し3年連続の4度目の認定獲得されている。また2018年には女性が活躍する職場として高い評価をされる「えるぼし」の認定取得し、優良な「子育てサポート」企業として高い評価を受ける2022年「プラチナくるみん」の認定取得を得ています。ワークライフバランスとダイバーシティの取り組みを促進し、持続可能な「かがやきカンパニー」を目指し、本当に様々な取り組み活動を実践され、とても参考になる取り組みでありました。



④ 立山科学株式会社
2023年8月に岸田首相も視察され、女性活躍と子育てについて車座を開催されていた。岸田首相からも「産休・育休からの復帰率100%ですが、それは何故ですか？」と質問されていました。2017年から取り組まれている「女性活躍す員プロジェクト」の活動について説明され、経営者層研修をはじめ女性役職者研修会、全国の女性活躍企業の視察訪問、ポジティブアクションプログラム、「とやま女性活躍企業」認定等々の取り組みを実践しています。



今回は民間企業の取り組みを視察に取り入れましたが、両立支援、女性活躍推進、男性育休の取得推進などに対し、企業投資として積極的に取り組んでいるところが重要だと感じました。98%が中小企業である福岡県での取り組みの実施を考えると、やはり行政支援策が必要となり、如何に中小企業の子育て支援・人財育成の推進体制を環境を整えることができるのか、この特別委員会の役割が非常に大きいものと考えます。

国際交流における県議会の役割は大きく、県議会と執行部との連携で、さらに地域間交流を推進します。

福岡県日韓友好議員連盟（副会長）

日本国と大韓民国相互の親睦をはかり、幅広い分野での交流及び調査研究を通して、日韓両国の相互理解と友好親善関係を増進し、ひいてはアジアの安全と繁栄に資することを目的とする。

駐福岡大韓民国総領事主催公邸晩餐会

9月25日、福岡県日韓友好議員連盟の副会長として、駐福岡大韓民国総領事主催公邸晩餐会に参加しました。自民党県議団に入り日韓議連副会長を拝命していますが、県議会議員になって初めての総領事館公邸を訪問しました。

朴建燦（パク・コンチャン）駐福岡大韓民国総領事も初対面でありましたが、やはりこういった草の根交流の積み重ねが国と国との友好の礎になるのだという想いで杯を飲み交わしました。

大韓民国国慶日レセプション

また10月3日には、ホテルニューオータニ博多で開催された「4356周年大韓民国国慶日レセプション」に出席してきました。

朴建燦（パク・コンチャン）駐福岡大韓民国総領事は、これで3回目の親睦交流となりますが、韓国には、人と人との関係は3回、6回、9回と出合いの回数を重ねるごとにより親密になっていくという法則があります。このような交流を地域レベルの交流に発展させるべく、相互尊重と相互信頼に基づく緊密な友好関係を築いていければと思います。

※平成24年5月10日に、韓国慶尚南道議会（大韓民国 慶尚南道 昌原（チャンウォン）市）において、福岡県議会と韓国慶尚南道議会との友好交流協定書が締結されました。協定書には、両議会が平等互惠の原則に基づき、相互理解や友好親善を深め、両地域の人的交流をはじめ、文化・経済分野などの民間分野を含めた相互交流が活発に行われるよう相互に努力し、両地域の交流促進と繁栄を目指すことが掲げられています。

友好交流協定を締結して以来、相互訪問を重ね、経済、環境、農業などの分野において交流と理解を深めてきました。今後とも、双方の連携を深めていき、多方面に交流が発展することを期待されています。



福岡県・ハノイ市友好提携15周年記念事業

木村厚太郎さん（オーケストラ指揮者でバイオリニスト）率いるベトナムハノイ福岡友好15周年記念事業 県庁ロビーミニコンサートが開催されました。バイオリン、フルート、トロンボーン、ピアノ、パーカッションの生演奏で、県庁ロビーには、大曲副知事や福岡ベトナム総領事も参加されました。

このコンサートは、福岡県在住で、ベトナム国立オペラバレエ指揮者として活動する木村厚太郎さんが率いる演奏団が、福岡にまつわる楽曲をメドレーにしたものなどを演奏しました。

木村厚太郎さんは、田川では冬の風物詩となっています「第九を歌うパイin たがわ」を長年にわたり活動されてきて、いつまでも夢を持ち続け、実現するための行動力には本当に頭が下がります。これからの活躍に期待しています。頑張ってください！

※木村厚太郎氏のプロフィールは、ベトナム国立オペラバレエ指揮者、福岡県文化貢献者賞受賞、指揮者YouTuber、2017年宗像・沖ノ島世界遺産群登録記念300人第九コンサート音楽監督となる。

福岡県・ハノイ市友好提携15周年記念事業

ベトナム国立オペラバレエ指揮者
木村厚太郎

バイオリン、フルート、トロンボーン、ピアノ、パーカッションによる

県庁ロビー
ミニコンサート

2023年10月18日[木]

開演 12:15 観劇料 12:45

会場 福岡県庁1階ロビー

観劇料 無料

福岡にまつわる楽曲をメドレーにした「博多ファンタジー」
ベトナム第2の国歌（Ca Ngai Ho Chi Tinh） ほか

木村厚太郎プロフィール
ベトナム国立オペラバレエ指揮者、福岡県文化貢献者賞受賞、指揮者YouTuber
2017年宗像・沖ノ島世界遺産群登録記念300人第九コンサート音楽監督

福岡にもっとパイin たがわが盛り上がるオーケストラ・ニューオータニ博多の音楽会11回で指揮するコンサートを相継ぎ開催
2023年ハノイに拠るベトナムの大型祝祭のクラシック・コンサートシリーズも相継ぎ開催
2023年9月ベトナムハノイに「パイin たがわ」の大型祝祭のクラシック・コンサートシリーズを開催

YouTube Instagram Facebook



「主要地方道八女香春線国道昇格促進期成会」の要望活動

「主要地方道八女香春線国道昇格促進期成会」の要望活動(国道昇格及び整備促進に関する要望)で、福岡県県土整備部長及び国土交通省九州地方整備局長に直接要望を行いました。

主要地方道八女香春線は、福岡県内の主要地方道としてはもっとも延長が長く、「筑後地域」では国道442号を經由して「八女市」で国道3号や九州自動車道に、「筑豊地域」では「香春町」で国道322号、さらには国道201号につながる幹線道路です。

また本路線は、国道210号をはじめ、国道211号、国道386号、国道500号及び国道322号バイパスと交差する、県南東部4市3町1村を結ぶ極めて重要な道路であります。

さらに、平成29年の九州北部豪雨で被災した JR日田彦山線のBRT(バス高速輸送システム)での復旧において、本路線を運行し活用されております。

しかしながら、路線の多くが山間地域を經由しており、その地形と自然条件等から道路整備は遅れている状況となっております。

このため、沿線地域の産業振興と経済発展を図ることを目的に、「国道への昇格」及び「整備促進」のため、関係市町村と沿線住民の悲願として平成3年8月に促進期成会を結成し、協力体制を確立し活動を展開しております。



田川猟友会役員の方々と意見交換と要望



田川猟友会役員の方々と意見交換と要望を受けました。仕組みや制度に関する事で、なかなか難しい問題だと思いましたが、最高裁の判例もあり、どこまで応えられるかわかりませんが、きちんと対応してまいります。猟友会も時代とともに高齢化になってきて様々な課題を抱えています。

以前にも猟友会の方からの陳情を受けて、県執行部に質問や要望したり、国(農林水産省)への陳情については、平成26年に麻生太郎事務所において実現もできました。その時の要望書は以下の内容でした。

平成26年11月11日

麻生太郎 副総理兼財務金融担当大臣 様

福岡県議会議員 神崎 聡

国においては、深刻さを増す鳥獣被害に対して、各種施策を実施されているところですが、

特に、平成25年度から実施されている「鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業」は、市町村の緊急捕獲等計画に基づく捕獲に対し、頭数に応じた捕獲活動経費等の助成を行っており、地域の捕獲数の向上に大きく寄与しています。事業実施主体である市町村が捕獲個体の確認を行う際には、現地確認が困難な場合において、捕獲個体又はその部位による確認ができるものとされています。

この事業において事業実施主体である市町村が捕獲個体を確認する際には、現地確認が困難な場合において、捕獲個体又はその部位による確認ができるものとされています。

具体的には、獣類にあっては原則として尾、両耳及び歯とされているが、捕獲個体の状況等に応じて適切に取り扱うものとされており、既に歯については確認部位から除くことが認められています。

一方、捕獲現場における捕獲個体の確認については、確認した尾を市町村が回収・処理していることから、尾のみの確認で不正防止が図られると想定されます。

この尾のみの確認については、国は、尾のみで確認できるのであれば、両耳は除くことが認められるが、その理由については、事業実施主体で整理しておくこと判断されています。このような曖昧な表現から、下記のとおり各県の確認状況に差があることから、混乱を生じている地域があります。

このようなことから以下のことを要望します。

鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業の捕獲個体の確認部位として尾として統一すること

○九州各県の状況

確認部位	県数(県名)
尾のみ	2 (大分、宮崎)
耳・尾だが耳の除外は市町村判断	2 (長崎、熊本)
耳、尾	1 (佐賀)



鳥獣被害はますます深刻で、農林水産省は、平成25年度から「鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業」を実施している。これは、市町村の緊急捕獲等計画に基づく捕獲に対し、頭数に応じた捕獲活動経費等の助成を行っているもので、地域の捕獲数の向上に大きく寄与している。事業実施主体である市町村が捕獲個体の確認を行う際には、原則として尾、両耳及び歯とされている。ただし、平成25年度以前から地元では、尾のみの確認で不正防止が図られることから、かえって両耳も提出しなければならず、煩わしくなったとの要望があった。調べてみると九州各県の確認状況に差があることから、混乱を生じている。したがって、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業の捕獲個体の確認部位として尾として統一することを要望した。野田秘書に相談すると、担当室長にすぐに電話され、迅速に対応して頂いている。

麻生グループOB会総会・懇親会

令和5年9月23日、令和5年度麻生OB会総会&懇親会が飯塚の「のみみプレジデントホテル」で4年ぶりに開催されました。新入社員の時からお世話になっていた上司や先輩方との久しぶりの再会に話が弾み、麻生泰会長ともお会いできて、よかったです。

次男が(株)麻生に入社2年目となりますが、職場の仕事ぶりや人付き合いのキャラなどいろいろ聞いて、麻生のOBとして、また親として、とても嬉しくもありました。

それにしても、麻生OBの凄さを改めて認識させられます。麻生泰会長には、九州経済連合会の第8代会長後は、名誉会長として、観光地が多く農産物も豊富で、アジアに近いという地域特性を生かした経済の底上げを目指したご功績を、今後も更に推し進めて頂き、九州を牽引して頂きたいと思っています。

従来からの課題に積極的に取り組むとともに、「九州経済の躍進が日本を動かす」ために、官民一体の強みを生かし、さらに筑豊の新産業創出に果敢に取り組んでいきたいと思っています。



令和5年度筑豊地区商工会と地元県議との懇談会

9月8日18時より、筑豊地区商工会と地元県議との懇談会に参加しました。4年ぶりの開催でした。

筑豊地区商工会の現状や地域の小規模事業者が直面している課題等々、筑豊支部会長会からの要望や筑豊連活動報告・要望、県女連筑豊支部活動報告・要望の後、意見と質疑応答が活発に行われました。懇親会も用意され、ノンアルコールでしたが、ここでも有意義な本音での意見交換が出来ました。

とにかく地方は少子高齢化の進行が著しく、需要の減少とグローバル化によって経済状況・経営環境は本当に厳しい状況にあります。一つの会社・団体だけでの努力では限界もあり、行政との連携、地域の将来ビジョンの共有化による官民一体となった取り組みが重要になってきます。



第18回豊徳祭

4年ぶりとなりました「第18回豊徳祭」が、秋晴れの中、開催されました。皆さんの楽しそうで元気な笑顔がいいですね。オープニングは、和太鼓たぎりによる圧巻のステージでした。また会場には福岡を中心に活躍中の杉山39さんやチャゲアスのモノマネで有名なKINZ&K-ingさんなどたくさんのゲスト方が盛り上げていました。

社会福祉法人豊徳会は、“共に生きる”をモットーに心と心で繋がったより暖かい社会の創造をめざし、安心して暮らせるための支援を行っています。

社会福祉法人豊徳会さんとは、本当にいろんなご縁があります。お亡くなりになられた前理事長とは、県議になる前からの付き合いで、本当によくして頂きました。これからも末永くお付き合いしていきたいと思っています。



添田町地区公民館対抗のソフトボール優勝

添田町地区公民館対抗球技大会が3つの種目(ソフトボール、グランドゴルフ、カローリング)で開催されました。

老若男女、皆さん、汗を流されていて、その後も懇親会も試合の珍プレー・好プレーを肴に、面白おかしく騒いでいました。まだまだ地域のコミュニティを息づいているなあと感じます。今回、大学生の三男が教育実習のため帰省し次男と一緒に参加しましたが、子どもたちが大人になり、地域行事に参加することが何よりも大事だと思います。





祝 川崎町制施行85周年記念式典

川崎町制施行85周年、誠にありがとうございます。原口正弘町長、大谷春清議長をはじめ、町議会議員の皆様、そして町の発展に尽くしてこられた多くの町民の皆様にご心からお祝い申し上げます。また、川崎町の発展に大きな功績をあげられ、表彰を受けられます皆様に、重ねて、お祝い申し上げます。

川崎町では、明治から昭和30年代までは石炭産業が栄え、わが国の近代化と経済を力強く牽引してこられました。しかし、エネルギー革命により、石炭産業が衰退する中、川崎町は新たな発展の道を歩むことになりました。この一世紀は、川崎町にとって、まさに激動の時代でありました。

川崎町は自然や文化の魅力にあふれ、大きな発展の可能性をもった町であると思っています。南に霊峰英彦山、北に福智山を仰ぎ、中元寺川をはじめ、いくつもの川が流れ、「田代の森」や「安宅棚田」など、素晴らしい景観、豊かな自然があふれています。この恵まれた自然環境に加え、「雪舟」が築庭した国指定名勝庭園「藤江氏魚楽園」や「光蓮寺輪藏附経蔵」など、歴史や文化が薫るところです。

そして、何より温かい人情にあふれており、まさに地域資源の宝庫と言っても過言ではありません。このような恵まれた自然や歴史・文化を活かしながら、観光や農産物など、川崎ブランドづくりに取り組まれ、近年では、西日本最大規模のパンイベント「かわさきパン博」や、農産物直売所「De・愛」をはじめとして、食を通じた観光にも取り組まれており、「食と農のまち・川崎」に、町内外の多くの人を惹きつけています。

川崎町がこの町制施行85周年を契機に、益々発展されますこと、そして、町民の皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。



祝 豊前川崎商工会議所 創立70周年記念式典・祝賀会

令和5年10月20日に開会されました。豊前川崎商工会議所は、昭和28年10月発足以来、地域の中小企業の最も身近な支援機関として、きめ細かな巡回指導や窓口相談などを通じ、川崎町内の会員企業の経営力の強化に支援し、地域経済の発展に多大な貢献をなされてきました。

70年と言っても決して平坦な道ではなかったと思います。石炭から石油へのエネルギー革命、バブル経済の崩壊、そして新型コロナウイルス感染症や物価高騰による経済的打撃等々、数々の苦難の道を乗り越えての70年だったんだと思います。難局を乗り越えて今日があり、今後も川崎町と連携を図り交流人口増加につながる各種イベント開催など積極的に取り組んで頂きたいと思っています。

創立70周年を契機とした豊前川崎商工会議所の益々のご発展と、会員企業の繁栄を心から祈念致しています。祝賀会の終わりに 万歳三唱の音頭を指名されました。大変僣越でありましたが大きな声で元気よく音頭を取らせて頂きました。



略歴

- 昭和53年 彦田町立彦田中学校卒業
- 昭和56年 福岡県立田川高等学校卒業
- 昭和60年 日本大学商学部会計学卒業
- 昭和60年 麻生メント株式会社入社
- 平成2年 株式会社麻生情報システム 取締役(分社化)
- 平成12年 株式会社麻生情報システム 取締役
- 平成13年 株式会社麻生情報システム 代表取締役
- 平成23年 福岡県議選(田川郡区) 初当選
- 平成27年 福岡県議選(田川郡区) 2期目当選
- 平成31年 福岡県議選(田川郡区) 3期目当選
- 令和5年 福岡県議選(田川郡区) 4期目当選

福岡県議会での主な所属

- 自由民主党福岡県支部
- 県民生活商工常任委員会 委員
- 子育て支援・人材育成調査特別委員会 副委員長
- 令和5年決算特別委員会 理事
- 福岡県消費生活審議会 委員
- 交通事故をなくす福岡県民運動本部 委員
- 福岡県タイ友好議員連盟
- 福岡県森林・林業・林産業活性化促進議員連盟
- 福岡県日韓友好議員連盟 副会長
- 福岡県日米友好議員連盟
- 福岡県日中友好議員連盟
- 福岡県国際交流推進議員連盟 委員
- 福岡県ベトナム友好議員連盟
- 福岡県台湾友好議員連盟
- 福岡県防衛議員連盟
- 福岡県保健医療議員連盟
- 過疎地域活性化対策福岡県議員連盟
- 産地地域活性化対策福岡県議員連盟
- オイスカ国際活動促進福岡県議員連盟
- 福岡県観光産業振興議員連盟
- 福岡県文化議員連盟 副会長
- 福岡県スポーツ議員連盟
- 九州・沖縄未来創造会議
- 九州の自立を考える会
- 日本会議福岡支部
- 田川県方バイパス延伸推進期成会 顧問
- 田川広域観光協会 理事
- 北九州下関道路整備促進福岡県議員連盟
- 日田彦山線復旧問題対策協議会 委員
- 福岡県地域公共交通事業振興議員連盟

9月16日と17日の2日間、川崎町制施行85周年記念事業として、「かわさきフェスタ2023」が開催されています。開会式では来賓挨拶もさせて頂きましたが、盛りだくさんのイベントとブースには43の出店があります。夜は盆踊りや花火大会もあり、大いに盛り上がり、また、お土産に「かわさきアップル」を頂戴しました。川崎町観光りんご園ではいろいろな品種のりんごを栽培しています。

